



進路だより

第3号 令和2年 9月30日
宮城県立石巻支援学校
進路指導部

夏休みが終わり、児童・生徒の元気な声が学校に戻ってきました。今年の夏は、例年と比べ制約の多かった夏休みだったと思います。保護者の皆様の御理解と御協力に感謝申し上げます。

各学部での進路達成に向けた学習を御紹介いたします。一見、進路とは直接関係のないように思われる活動でも、様々な経験を通して身に付けたことは、将来の自立へとつながっていきます。



高等部 「作業学習」



今年度、前期の現場実習、校内実習は中止となりましたが、そのかわりに週3日間の作業学習を充実させています。

「農芸班」は土づくり、除草、収穫作業を行い、ジャガイモ、タマネギ、ズッキーニの収穫と販売を行い、「陶芸班」では、お皿の成型となめし作業、粘土の型抜きをしています。「手工芸班」では、さをり織り、ストラップビーズやボックスティッシュカバー作り、「木工班」では、鉢台とリモコンボックスを製作しています。「サービス班」は、ビルクリーニング活動で掃除の仕方を学ぶほか、お掃除グッズ作りをしています。「生活班」は、リサイクル作業と創作活動を行っています。8月31日（月）からは3年生の前期現場実習がありました。

中学部作業学習



中学部には「木工班」と「工芸班」の二つの作業班があります。「木工班」では桜の木の枝をのこぎりで切ったり、やすり掛けをしたりしてコースターなどを作っています。流木の形を生かした壁飾りやペン立てなどの素敵な作品もあります。「工芸班」では牛乳パックを利用して、しおりやポチ袋などを作っています。牛乳パックのラミネートを剥がし、乾燥させて干してシュレッターにかけ、ミキサーにかけて紙すきの型に流し、最後に乾かして成形しています。そして、個々の課題に応じた活動をする「自立活動班」は、作品に添えるメッセージカードを作っています。どの班も全ての工程で、みんなで力を合わせて取り組んでいます。



小学部～「3年生 校外学習 キボッチャ」



9月10日（木）、東松島にある防災体験型学習施設KIBOTCHA（キボッチャ）に行きました。遊びを通して避難を疑似体験したり、担架で運ばれる体験をしたりしました。昼食は、みんなでカレーライスを食べました。



What's “福祉サービス”？Ⅱ



今回は、高等部を卒業後に利用するサービスについて簡単に解説します。小学部・中学部にお子さんのいる御家庭も是非御一読ください。

就労継続支援A型は、企業で働くことが困難な方であって、雇用契約に基づき、継続的に就業が可能な65歳未満の方に対し、生産活動、その他の活動の機会の提供、その他の就職に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練・支援が受けられるサービスです。


対象者とは…

- ① 就労移行支援事業を利用したが、企業等の雇用に結びつかなかった方
- ② 特別支援学校を卒業して就職活動を行ったが、企業等の雇用に結びつかなかった方等です。

就労継続支援B型は、企業で働くことが困難な方に対し、雇用契約を結ばずに働く場所が得られるサービスです。生産活動を通じて、その知識と能力の向上に必要な訓練などの福祉サービスが受けられます。

対象者とは…

- ① 就労移行支援事業を利用した結果、B型の利用が適当と判断された方
- ② 就労経験がある方であって、年齢や体力の面で一般企業に雇用されることが困難となった方等です。

 利用期限はなく、各施設が定めた工賃を受け取りながら、企業で働くための訓練を行います。B型を利用する人は、「就労アセスメント」を受ける必要があります。（進路の手引き9ページ参照）



進路情報

令和3年4月、仙台の青葉山に、『(仮称)支援学校仙台みらい高等学園』が開校します。

私立の特別支援学校で、高等部3年課程の「本科」と専門教育2年課程の「専攻科」を設置しています。寄宿舎もあります。将来の一般企業での就労を目指して学習します。

●主な学習内容：1年次で「キャリア基礎」として社会生活に必要なコミュニケーションスキル、ビジネスマナー等を学び、後半から「芸美」「食農」「福祉」「サービス」の概論等を学びます。2年次からは「芸美」「食農」「福祉」「サービス」から一つのコースを選択し、学習します。

●定員：高等部本科24名、専攻科16名

●学校に通う期間：高等部本科3年、専攻科2年

●所在地・連絡先：〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉393-12

電話：022-781-5924（開校準備室） HP：<https://www.sanko.ac.jp/tokubetsu-shien/>

コラム 「この子らを世の光に(糸賀一雄)」子供たちの社会的な役割



世の光としての役割 = 平和な社会、共生社会の形成に必要な存在
= 争うことなく、心がつながる喜び(共感の価値)を教えられる役割

子供たちの社会的な役割をどのように考えればいいのでしょうか。いろいろな考え方があると思いますが、社会福祉の父とされる糸賀一雄先生(滋賀県の「近江学園」創設者)は、障害のある子供たちを「世の光」と考え、世の中をより良くする大切な役割を持っていると考えました。争うことなく相手と心をつなごうとするこの子らの存在は、平和な社会の形成につながると考えたのだと思います。現場実習などの機会は、地域の多くの方々と子供たちが関わるきっかけとなります。関わった皆さんが、心がつながる喜び(共感の価値)を実感できれば、子供たちの社会での役割に気付いていただけるのではと思います。